



▲3月11日(日) 松本山雅FC VS モンテディオ山形

安曇野市
農業再生協議会だより

第2号
平成24年3月31日発行
発行元：安曇野市農業再生協議会

**サッカー「松本山雅FC」の
ホームゲームで農産物PR**

J2に昇格した「松本山雅FC」のホームグラウンド「アルウィン」(松本平広域公園総合球技場)で、三月十一日(日)に当農業再生協議会が安曇野農産物PRと販売促進を行うため、飲食ブースを出店いたしました。

時おり雪も舞う寒い一日でしたが、当日が「松本山雅FC」のホームゲーム初戦ということもあり、一万三千人余と、通常より五人ほど多い観客が来場し、スタジアム全体が、熱気に包まれておりました。

当農業再生協議会の他に約二十店舗ほどの飲食ブースがスタジアムの周りに出店されており、試合開始直前まで、観客の賑いが絶えませんでした。当農業再生協議会では、「野菜菜おこわ弁当」「焼きおにぎり」「おやき」等の販売を行い、対戦相手となる県外の応援者からの人気を集めました。

また、県外からの応援者が、安曇野市内へ



▲安曇野市農業再生協議会 飲食ブース

足を伸ばして頂けるよう、安曇野市の観光パンフレットなども多くの方に配ることができました。

今シーズンは、アルウィンでのホームゲームが二十一試合あり、そのうち十一試合で販売ブースを出店します。この機会に「安曇野の農産物」を中心に、安曇野市のPRを行っていきます。



▲行列のできる飲食ブース

「お」知「ら」せ「い」

平成二十三年度 市農業再生協議会各種検証事業報告会を左記の日程で開催いたします。関心のある方はご聴講ください。

記

日 時 平成二十四年四月二十三日(月)
午後一時三十分～三時三十分

場 所 三郷公民館 講堂

検証内容等 「温湯消毒による花き連作障害対策」
検証事業 「心ゆ水たんぼ」検証事業 外

生産振興部会

【花き】皆さんは、バレンタインに

何を贈りましたか？

花き生産振興協議会では花の消費拡大を目的とした企画「フラワーバレンタイン 安曇野」を二月十三、十四日の二日間実施し、花ギフトを作成しました。合わせて、安曇野の花き生産者が取組む有機栽培についても展示を行いました。

参加者は約二二〇名、各回それぞれに男性が参加し、少々照れながらそれぞれのギフトを制作しました。安曇野の花を紹介し、PRすることにより、花を身近に、また、春を感じながら



▲夫婦で仲良く

終始笑顔があふれる講習となりました。

花は小さくても人を幸せにできる存在として注目されていますが、日本の男性は花を贈ることに「恥ずかしい」と感じるなど、抵抗感を持つ人が多いようです。お互いに感謝を伝えられるきっかけとして今回の企画が安曇野で認知されることを願い、今後取り組みたいと思います。

【果樹】希望者はお早めに！

農薬飛散防止対策事業補助金

SS（スピードスプレーヤ）による農薬散布時のドリフト（果樹園外への農薬飛散）を防止するための対策の一つとして

「SS遮断板設置補助事業」を平成二十二年度から実施しております、これまでに約三十台が設置されています。

果樹園の周囲で果樹以外の作物を作っている場合、また近隣の住宅地等への予期せぬ飛散を防止するためには、「風のある日に実施しない」「隣接した圃場の農家同士で普段からコミュニケーションを取る」などの基本的な注意事項を遵守することが非常に大切になります。



▲SS遮断板検証実験にて

また、遮断板を設置することでより安全度が高まり、また

効率的な散布にもつながります。この補助事業は、平成二十四年度で終了となりますので、設置を希望される皆様はお早めにご相談ください。



【そ菜】化学肥料や化学農薬を減らした野菜作り

「化学肥料や化学農薬」を低減した農産物の需要は、消費者へのアンケート調査においても年々増加傾向にあり、通常の価格より一〜二割高くても購入したいと考える方が多くあります。

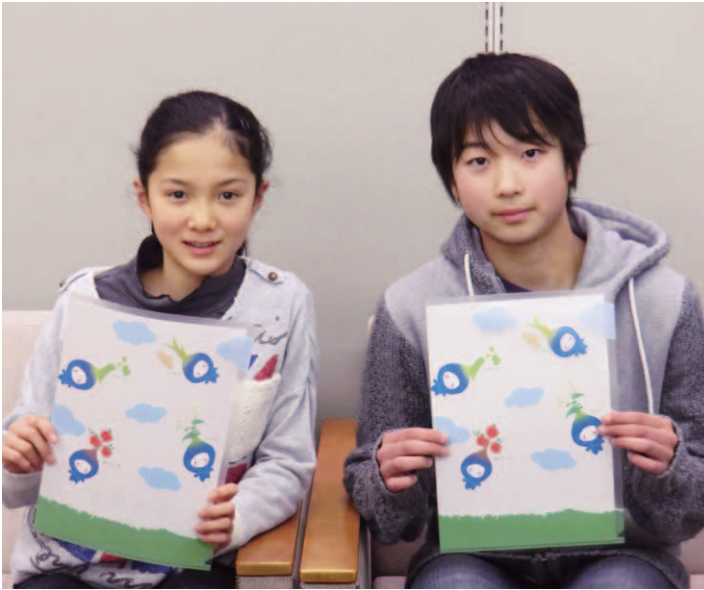
そこで、二十四年度から、市内の農家さん向けに、基礎学習を含めた講習会を実施したいと考えています。興味のある農家さんは、是非ご参加ください。

【販売促進】小学生に

クリアファイルを贈りました。

農産物のPRに活用するイメージキャラクターをプリントした「クリアファイル」を制作し、安曇野市内十校の小学校を卒業する児童に贈りました。

クリアファイルは、市内の主な農産物等に



▲クリアファイルを配布された卒業生

関心をもってもらい、将来の職業の一つの選択肢として、また、地産地消への理解等に生かせるよう、ファイルの中に農産物に関するクイズなども取り入れ、作成されております。四月には、新一年生から六年生にも同様のクリアファイルを、配布したいと考えています。

この三月に小学校を卒業する子供たちからは、「キャラクターがかわいい」と言ってもらえ、今後も安曇野の農業に親しみを感じられるような、農産物のPRができればと思います。

【米穀類】山形県「つや姫」視察研修

米穀類生産振興協議会は、二月二十三日・二十四日、山形県農業総合研究センターにおいて「つや姫」のブランド化に向けた取り組みについて研修を行いました。

山形県では、過去



▲研修を受ける生産者の皆さん

去に開発した品種「はえぬき」を普及した際の経験を生かし、積極的に県外でも生産されるよう働きかけたことにより全国的な知名度を得て、ブランドイメージが構築されたことや「つや姫」の生産農家は、全ての生産農家が県認証を受けることで品質管理が徹底されたこと等の話を伺うことができました。

長野県では「風さやか」という新品種が登場しており、二十四年度事業では、当協議会において約1haの試験栽培を行い、この品種の特性等を検証したいと考えております。将来の「安曇野ブランド」とすることが出来るか検証する予定です。



【畜産】「乳酸菌液」を使った畜産悪臭対策

モデル事業

畜産経営が起因となっている悪臭問題については、今後、畜産経営を継続する上で、早急に解決を図らなければならない喫緊の課題となっております。

そこで、当協議会では「乳酸菌」に着目し、平成二十四年度からモデル事業に着手し、その効果等を検証する事業を考えています。

この事業は、乳酸菌液を大量に製造（グルンバシステム）し、大量に畜舎内に散布することで、悪臭の低減を図ることを目的としています。

同時に、家畜の健康面での改善も見込まれることから、畜産農家の収入面にも良い影響がでる可能性があります。

本事業が良い結果を伴い、今後の畜産経営の一助となるよう、取り組みを行ってまいります。



▲鹿児島県志布志市に設置されているグルンバシステム

